

令和5年度全国学力・学習状況調査結果（中学校）

中学校・国語

分類	区分	国語			
		久喜市	埼玉県(公立)	全国(公立)	
全体		70	71	69.8	
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	66.4	68.8	67.5
		(2) 情報の扱い方に関する事項	65.2	64.3	63.4
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	72.4	75.9	74.7
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	84.8	83.4	82.2
		B 書くこと	64.4	65.0	63.2
		C 読むこと	63.6	65.2	63.7
問題形式	選択式	73.9	73.9	73.1	
	短答式	63.7	66.7	65.6	
	記述式	69.6	70.2	68.0	

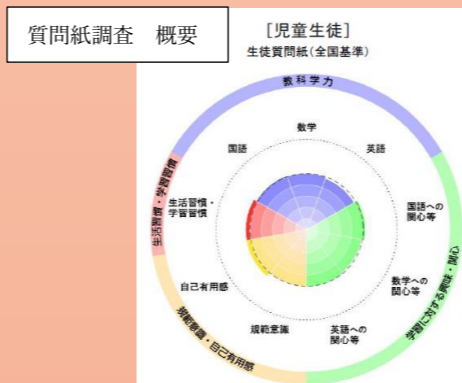
中学校・数学

分類	区分	算数		
		久喜市	埼玉県(公立)	全国(公立)
全体		50	52	51.0
学習指導要領の領域	A 数と計算	61.3	62.9	63.0
	B 図形	30.4	34.5	33.2
	C 関数	50.4	52.0	51.2
	D データの活用	50.7	52.0	48.5
問題形式	選択式	43.9	45.5	45.3
	短答式	61.9	64.0	62.6
	記述式	40.8	43.2	41.6

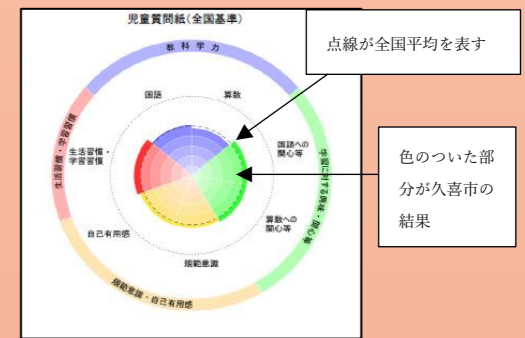
中学校・英語

分類	区分	英語		
		久喜市	埼玉県(公立)	全国(公立)
全体		43	46	45.6
学習指導要領の領域	(1) 聞くこと	56.4	59.6	58.4
	(2) 読むこと	47.8	51.4	51.2
	(3) 話すこと [やり取り]	12.6	-	14.5
	(4) 話すこと [発表]	5.4	-	4.2
	(5) 書くこと	20.2	24.1	23.4
問題形式	選択式	52.1	55.5	54.8
	短答式	25.7	30.4	30.1
	記述式	11.9	14.8	13.5

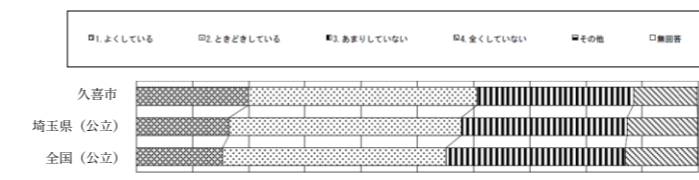
中学校・質問紙調査



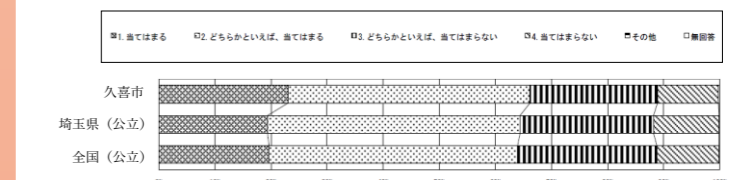
チャートの見方(例)



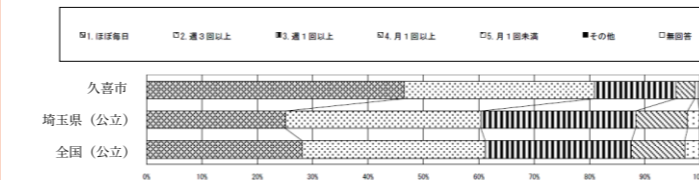
問 家で自分で計画を立てて勉強をしていますか



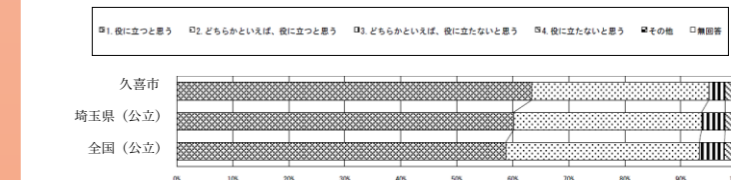
問 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか



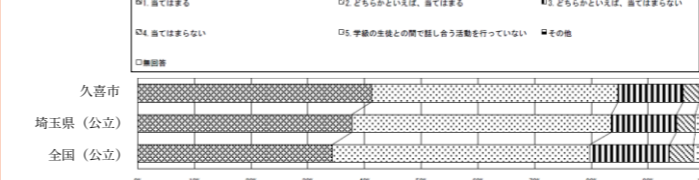
問 1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか



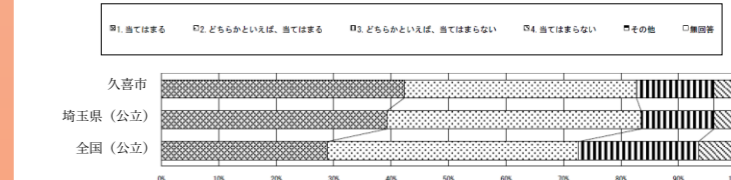
問 学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか



問 学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか



問 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか



◆成果と課題 (○：成果 ●：課題)

○成果 (○：全国平均を上回った ▼：全国平均を下回った)

国語		令和5年度 全国平均正答率との差	数学		令和5年度 全国平均正答率との差	英語		令和5年度 全国平均正答率との差
全体	国語	○0.2	全体	数学	▼1.0	全体	英語	▼2.6
学習指導要領の内容	言葉の特徴や使い方に関する事項	▼1.1	領域	「数と式」	▼1.7	領域	話すこと[発表]	○1.2
	「話すこと・聞くこと」	○2.6		「データ活用」	○2.2		書くこと	▼3.2
形式	「短答式」	▼1.9	形式	「選択式」	▼1.4	形式	「短答式」	▼4.4
	「記述式」	○1.6		「記述式」	▼0.8		「記述式」	▼1.6

国語においては、「思考力、判断力、表現力等」及び記述式等で全国平均を上回った。特に、問題形式別の「記述式」では全国平均を1.6上回った。数学においては、全体的には、やや全国平均を下回る結果となった。しかし「データ」では全国平均を2.2上回った。英語においては、全体的には、やや全国平均を下回る結果となった。しかし「話すこと[発表]」では全国平均を1.2上回った。

●課題
国語においては「歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むことができるかどうかをみる問題」の正答率が低かった。数学においては「四分位範囲の意味を理解しているかどうかをみる問題」「条件を変えた場合に事柄が成り立たなくなった理由を、証明を振り返って読み取ることができるかどうかをみる問題」の正答率が低かった。英語においては「日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取ることができるかどうかをみる問題」「文と文との関係を正確に読み取ることができるかどうかをみる問題」「未来表現 (be going to) の肯定文を正確に書くことができるかどうかをみる問題」の正答率が低かった。これらを課題として、CBTによる市独自の学力調査を毎月実施し、その中で課題のある領域の問題を出題するとともに、一人ひとりの正答状況に合わせた補習問題を提供する、またAI型ドリルの利用を促進する等、ICTを活用した「個別最適な学び」を推進し改善を図る。